



こども いきいき 生き物調査新聞 2021

こども「いきいき」生き物調査2021調査結果概要版



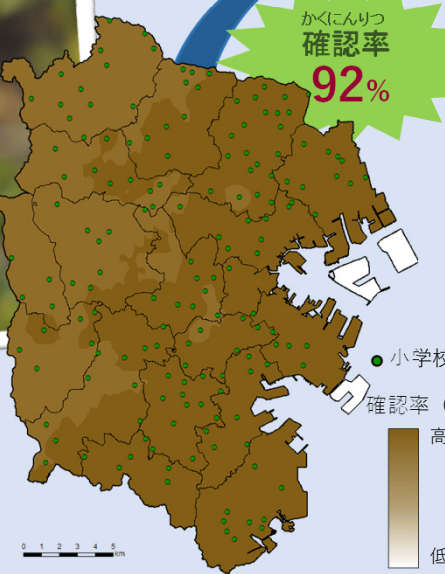
緑区にて



中区にて



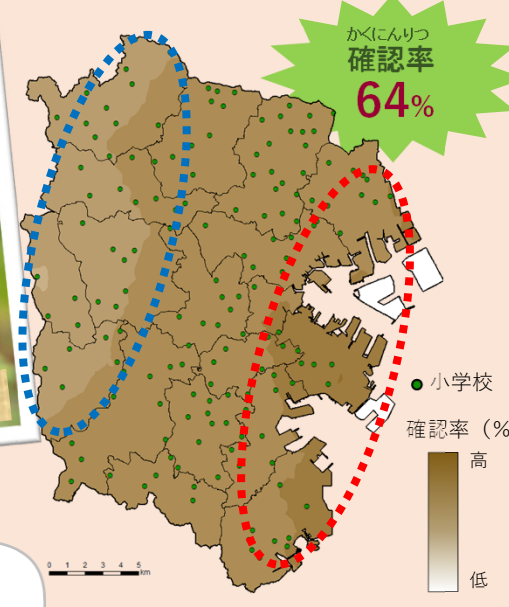
西区にて



かくにりつ 確認率 92%

もっと細かく 見てみよう!

東側に多い?



かくにりつ 確認率 64%



高い所を飛んでいるけど、模様のお陰で目立っているね!

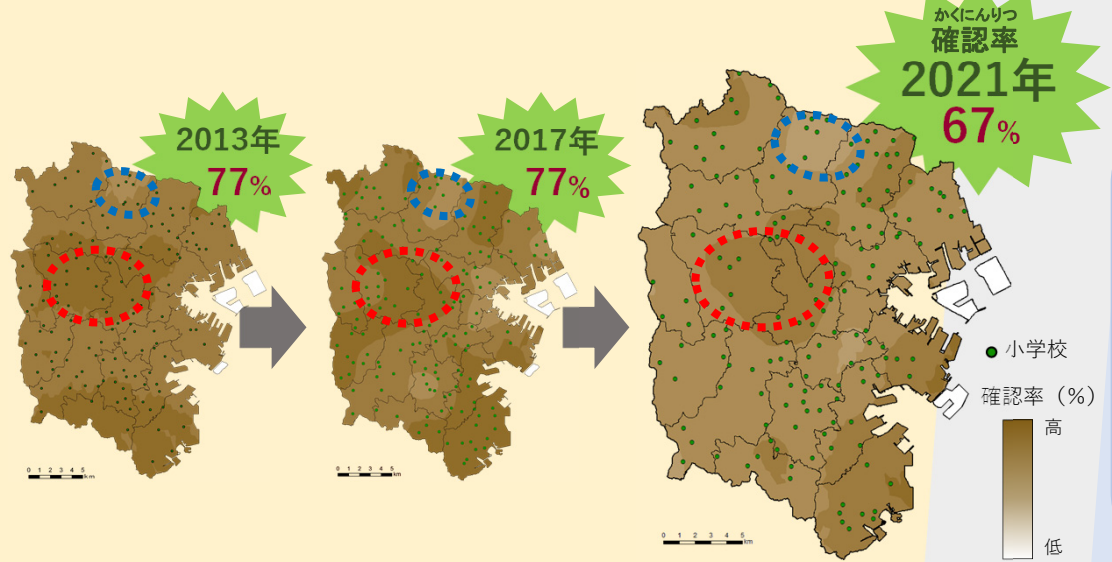
アオスジアゲハは都市部に多い!?

西部に比べて東側の臨海都市部で確認率が高かったのは、アオスジアゲハが町なかに街路樹として植栽されることも多いクスノキやタブノキに産卵するためと考えられます。都市部においては最も多く見られるチョウの1種であり、都市部での増加も指摘されています。

今回、コロナ禍による行動自粛による影響なのか、調査対象種のほとんどは以前より確認率が低下しましたが、唯一アオスジアゲハは増加しました。それを考慮すると、アオスジアゲハは数値以上に確認しやすい生き物になっているのかもしれませんが。

このチョウは南方系の種類で、国内では現在、東北地方より南に分布し、北海道では見られません。市内では全域に見られますが、温暖化の進行などにより、今後、確認率は変化するかもしれません。

小学生1万人以上が調査に参加してくれたよ!



かくにりつ 確認率 2021年 67%

2013年 77%

2017年 77%

全国的に減少傾向、横浜は?

スズメは市内では個体数の多い鳥であり、都市部においても公園内の樹木のウロや、ビルのシャッターのすき間などで繁殖する姿が確認できます。2017年に続く2回目の調査ですが、市内東側での確認率が高い傾向にありました。全国的に減少傾向にあるとされていますが、本調査では確認率は高い結果となりました。東京都では郊外より都心部の方が数が多いという報告があり、横浜でも同じかもしれません。今後、都市化や生活様式の変化によってスズメの個体数が変化することも考えられます。



どの年も濃い部分と薄い部分が共通しているね!

ツバメは減ってきている?

2013年から毎年調査しているツバメですが、旭区周辺に確認率が高い地域があること、都筑区周辺に低い地域があることなど、多くの年で共通した特徴が見られました。2016年や2019年には減少の可能性が示唆されていましたが、今回の確認率67%はそれらを大きく下回りました。コロナ禍による行動自粛が影響している可能性もあると思われませんが、国内ではいくつかの調査でツバメが減少しているという結果もあり、今後どのように変化するか注目です。

感謝状

みなさんはこども「いきいき」生き物調査2021に参加され環境活動に積極的に取り組んでいただきましたここに深く感謝の意を表します

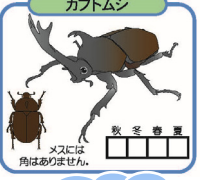
令和3年12月21日 横浜市環境科学研究所

- 【鶴見区】下末吉・岸谷・駒岡・上寺尾・鶴見・馬場・平安・豊岡・末吉・市場小けやき分校・上末吉
- 【神奈川区】三ツ沢・神橋・西寺尾第二・青木・中丸・二谷・子安・菅田の丘・白幡・西寺尾
- 【西区】宮谷・東
- 【中区】山元・大鳥・間門・立野
- 【南区】永田・蒔田・石川・太田・藤の木・南吉田・別所・六つ川
- 【港南区】下永谷・丸山台・吉原・芹が谷南・港南台第一・港南台第二・桜岡・上大岡・相武山・南台・日下・日野・日野南・野庭すずかけ
- 【保土ヶ谷区】岩崎・初音が丘・常盤台・新井・瀬戸ヶ谷・星川・藤塚・富士見台・保土ヶ谷・峯
- 【旭区】さちが丘・希望ヶ丘・今宿南・笹野台・上川井・都岡・二俣川・今宿
- 【磯子区】磯子・滝頭・梅林・洋光台第一・洋光台第二・屏風浦・根岸
- 【金沢区】釜利谷・釜利谷南・高舟台・西富岡・八景・富岡・文庫・並木第四・六浦・金沢
- 【港北区】下田・菊名・港北・綱島東・師岡・篠原・篠原西・小机・新羽・新吉田・新吉田第二・新田・太尾・大綱・大豆戸・日吉南・日吉南・北綱島・矢上・高田東・箕輪
- 【緑区】いぶき野・鴨居・三保・森の台・竹山・霧が丘義務教育学校・緑・山下みどり台・中山
- 【青葉区】さつきが丘・みたけ台・もえぎ野・荏田西・榎が丘・鴨志田第一・鴨志田緑・桂・黒須田・新石川・奈良の丘・美しが丘・美しが丘西・嶮山
- 【都筑区】すみれが丘・茅ヶ崎台・茅ヶ崎東・牛久保・勝田・川和・川和東・都田・東山田・南山田・北山田
- 【戸塚区】横浜深谷台・境木・秋葉・上矢部・川上北・大正・鳥が丘・東俣野・南舞岡・品濃・舞岡・平戸
- 【栄区】桜井・小山台・上郷・西本郷・千秀・本郷台
- 【泉区】いずみ野・岡津・上飯田・中和田・緑園西・緑園東
- 【瀬谷区】原・三ツ境・瀬谷さくら・大門 (全167校)



こども「いきいき」生き物調査ってなに？

横浜市環境科学研究所では、市立小学校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を行っています。2021年で9年目、8度目の調査になります。



どうやって調査したの？

調査票を配布し、過去1年間（2020年9月1日～2021年8月31日）に「家や学校の近く」（＝学区内）で見つたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。2021年は、ツバメの巣、スズメ、カブトムシ、コウモリ、ススキ、アオスジアゲハ、ヘビのなかま、カメのなかま、ホタルのなかまを調査しました。

だれが調査したの？

調査するのは横浜市の小学5年生！横浜市立小学校（義務教育学校を含む）全341校に調査票を配布し、167校11,037人が参加してくれました。

なんで調査したの？

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうこと、市内広域における生物情報を取得することを目的に実施しました。

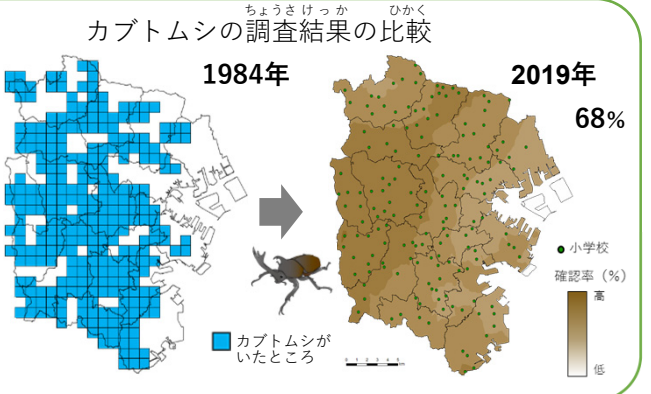
どうやって集計したの？

学校ごとに対象の生き物を見つけた割合（確認率）を集計し、市内全域における確認率の高低が色の濃淡で表示されるよう作図しました。

※ 作図にあたっては1校あたりの回答数が10人以上の157校のデータを使用し、GISソフトを用いたKriging法により、空間補間を行いました。

実は40年前にも…

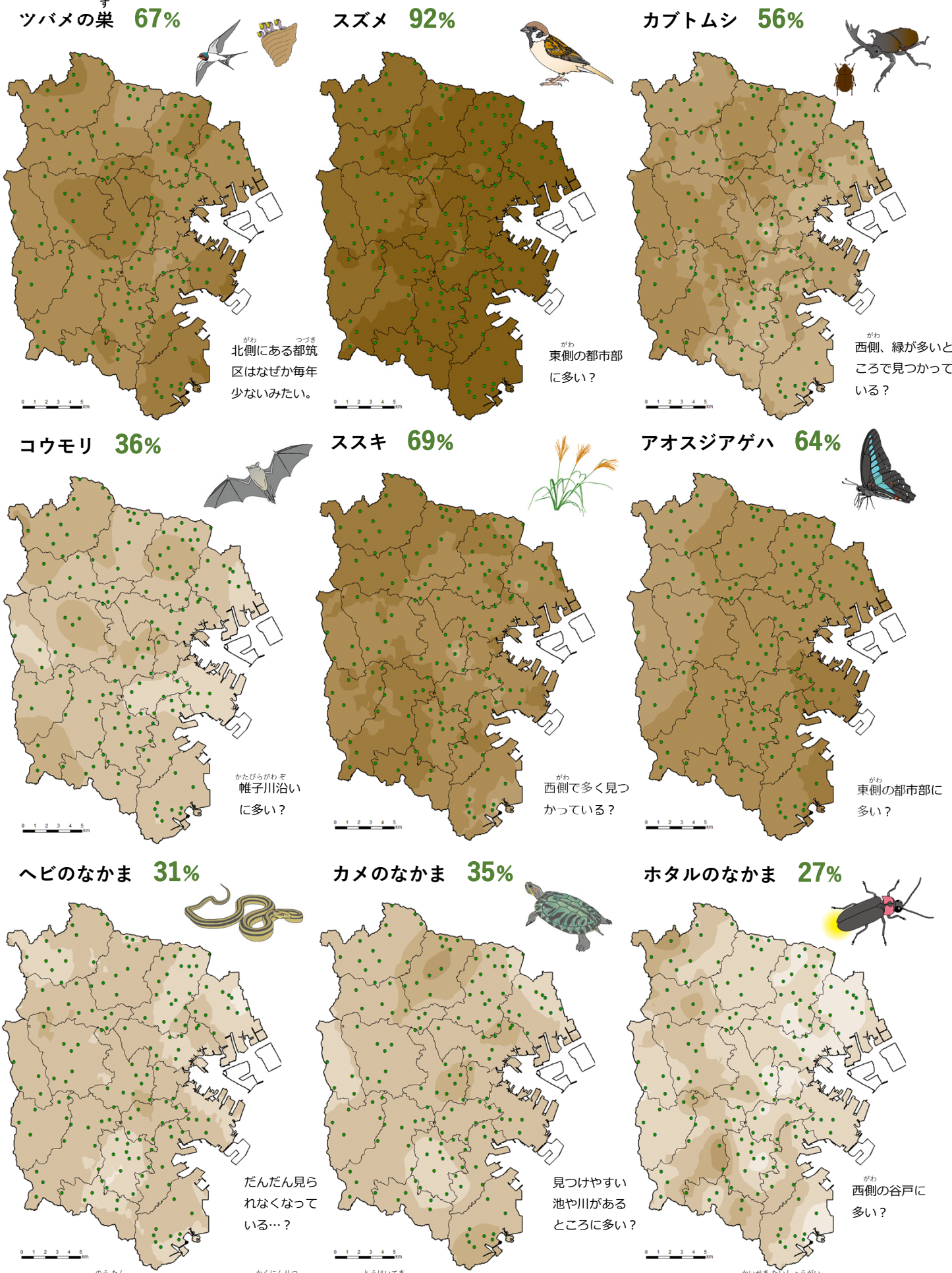
いくつかの生き物については、1984～1991年に最大3回、小中学生らを対象としたアンケートによる分布調査が行われています。約1km四方のマスごとに対象の生き物が確認できたかどうかを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました。



結果の詳細は、横浜市環境科学研究所Webページに掲載しています。（二次元バーコードからもアクセスできます）
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html>
学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて調査実施を見合わせましたが、調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来以降も対象とする生き物の種類を変えながら実施する予定です。

2021年12月作成 横浜市環境創造局 環境科学研究所 電話: 045-453-2550

2021年の調査結果 ※数字(%)は市全体の確認率を示しています。



注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。

